

令和7年度 観点別学習状況の評価から評定への総括の方法

令和7年度4月
教務

1 学習評価の目的

学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度の育成を確実に図る。

学習評価とは・・・

- ・児童の学習の実現状況を把握するためのもの
- ・児童の学習活動を励まし、資質や能力を伸ばすためのもの
- ・教師が自らの指導を振り返り、その改善を図るためのもの

2 学習指導における妥当性・信頼性のある評価のすすめ方

<指導と評価の一体化>

- ① 年間指導計画の作成
- ② 単元（題材）ごとの目標と内容を分析
- ③ 単元（題材）ごとの観点別学習状況の評価規準を設定
- ④ 評価場面と評価方法の選択
- ⑤ 児童・保護者への説明（通知表）

3 評価の観点

<3 観点>

- 「知識及び技能」
- 「思考力・判断力・表現力等」
- 「学びに向かう力・人間性等」

4 目標の重点化と評価の焦点化

- ① 学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容について、また教科で育成すべき資質や能力について十分に理解する。
- ② 各単元（題材）の目標及び内容等に応じて、各1単位時間の指導のねらいや内容があいまいになることがないように、何をどこまで身に付けさせるかを明確にする。
- ③ 各単位時間の指導のねらいや内容に基づいて、評価の観点を焦点化して評価規準を設定する。
- ④ 評価規準に示された資質や能力について、児童の状況を無理なく的確に把握できるように、評価場面と評価方法を選択する。
- ⑤ 毎時間の評価をカードに記入する。

3 評価方法の設定について

（1）「知識及び技能」の評価方法

- ・式やグラフに表す（算数）
- ・観察・実験の過程や結果を的確に記録し、整理する。（理科）
- ・調べたことをグラフや図表、作品にまとめる。（社会）
- ・ペーパーテストで評価する。
- ・観察法や作品・ノート分析法なども活用する。

（2）「思考力・判断力・表現力等」の評価方法

- ・基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を通じて評価する。（ペーパーテストだけで評価することのできる観点ではないことに留意し、様々な評価方法を取り入れる。）

- ・ポートフォリオ（ファイル）の活用やパフォーマンス評価（実技、レポート、発表、プレゼン、ディベート、試合）もある。

（３）「学びに向かう力・人間性等」の評価方法

- ・授業や面談における発言や行動等の観察により評価する。
- ・ワークシートやレポートの作成、発表などで評価する。

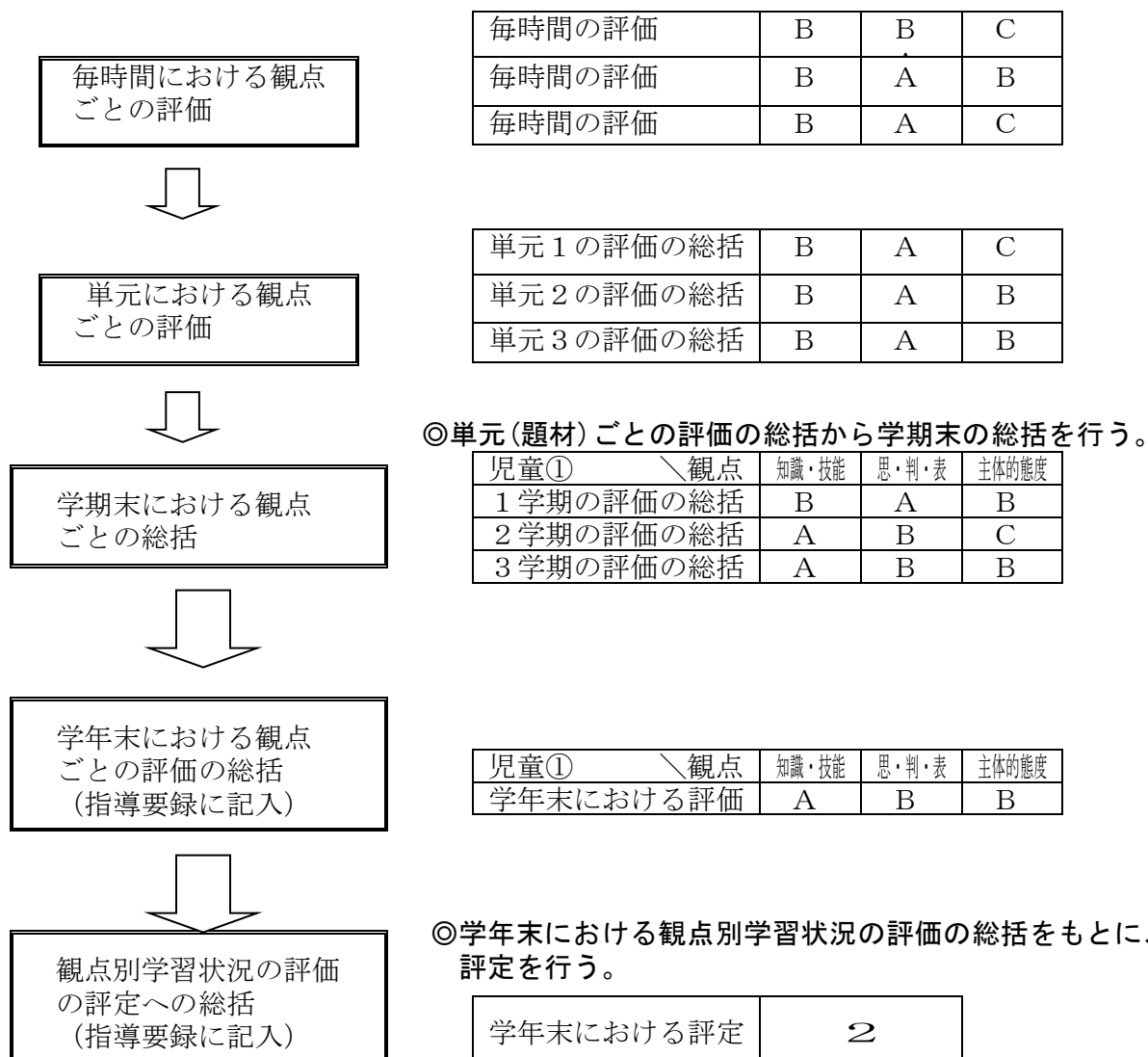
５ 観点別評価結果の記録について

① 記入の方法

小学校学習指導要領に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入する。

「十分満足できると判断されるもの」 **A**
「おおむね満足できると判断されるもの」 **B**
「努力を要すると判断されるもの」 **C**

② 観点別評価の方法



③ 観点別評価の総括方法

例	A	B	C
	A A A A A B B A A	B B B A B B B A C B C B	C C C C B C C C B
	* Aが3つあるいはBが1つある場合	* Bが3つあるいは A と C の場合以外	* Cが3つあるいはBが1つある場合

- ・各学期の評価が同じ場合は、総括も同じ評価にする。(例：A A A→A)
- ・各学期の評価結果が同じでない場合(A B Bなど)は、出現率の高い評価を重視しつつ、学年の目標や評価の観点の趣旨に照らし合わせ、総括的に評価する。

6 評定の方法について

①記入の方法

「十分満足できると判断されるもの」	3
「おおむね満足できると判断されるもの」	2
「努力を要すると判断されるもの」	1

②評価の方法

◎学年末における観点別学習状況の評価の総括をもとに、評定を行う。

例	3	2	1
	A A A A A B B A A A B A	B B B * 3 と 1 の 場合以外	C C C C B C A C C B C B

ア、上の表を原則とする。

- ・総括した3つの観点の評価が同一の場合は、評定も同じにする。(B B B→2)
- ・総括した3つの観点の評価が同一でない場合は、出現率の高いものを重視する。